

Izayoi String Quartet

十六夜弦楽四重奏団

The 10th Regular Concert

ハイドン 弦楽四重奏曲 第76番 「五度」

Franz Joseph Haydn, String Quartet No. 76 in D minor, Op. 76-2 "Quinten"

ヴェルディ 弦楽四重奏曲

Giuseppe Verdi, String Quartet in E minor

2019年 2月 23日(土) 15:00 開演 (14:30 開場)

入場無料

未就学児のご入場はご遠慮ください。
携帯電話の電源はお切りください。
写真撮影等其他のお客様の御迷惑になりますので
ご遠慮ください。



一井 宏磯 1st Violin

「翻訳できない世界の言葉」という本を最近いただいた。その一つが「Commuovere」と言うイタリア語であった。分解すれば「共に、動く」となるが、感動するとか共感するが最も近いかもしれない。幾分ニュアンス的には悲しみや情熱に由来しそれによって心がゆり動かされている状態と解釈するのがよりの確であろう。多くの人は物事を言葉という概念でとらえようとして足を踏み外す。何か概念化された瞬間にその対象物は、その概念ではなくなる。善悪に囚われず、一切の判断を交えずに、あるがままをとらえるなら、あなたと対象物との間には分断が無い。その時あなたはその対象物であり、共に動いている存在となる。

糸井 佐知子 2nd Violin

いつでも包まれているし、触れようとするれば触れそう・・・、だけど決して知り尽くすことはできない。心のレンズをズームインしたりズームアウトするたびに、あんなにさまざまな彩りや情景を見ることができると、決して言葉で伝えることはできない。

「同じ」に出会うことも、決してないんだ。

だから私は大好き、「音楽」とそれを共にできる「クアルテット」。

吉川 昌毅 Viola

知らない土地で、地図と勘を頼りにクルマを走らせるときの、あの感じ。

迷い込んだ旧街道沿いに古い家並みを見つけたり、薄暗い山道の先に苔むしたレンガ積み風のトンネルが口を開けていたり、牧場の中の真っ直ぐな道の向こうの低い山並みから白い雲がもくもく湧き出したり、行き着いた崖の上から夕陽を浴びる入江が見えたり。

次のカーブを曲がったら、今度はどんな風景に出会えるだろう？

クアルテットにはいつも、そんなワクワクがある。

久々津 邦子 Violoncello

私が初めて弦楽器をナマで聴いたのは、中学の芸術鑑賞会でした。今思えば、どうしてあんな岐阜の田舎に来てくれたのか分かりませんが、体育館で名フィルの弦楽器奏者の方達が演奏してくださいました。どの曲も素晴らしいのですが、特に芥川也寸志の「トリプティーク」は衝撃的でした。その頃は私も、中学生らしく、歌謡曲や洋楽もたくさん聴いていたのですが、弦楽アンサンブルのカッコよさにゾクゾクしました。その時は、まさか自分がチェロを弾くことになるとは思っていませんでしたが、今はカルテットに混ぜてもらったりして、とても楽しいです。これからもずっと続けます。

会場：カトリック西陣聖ヨゼフ教会

京都市上京区新町通一条上ル

地下鉄烏丸線今出川駅より徒歩 10分

主催、お問い合わせ：十六夜弦楽四重奏団

糸井佐知子 Tel.: 075-467-4329

イチイヒロキヴァイオリンショップ (株) <http://violinshop.co.jp>

